

## 防災拠点という機能を「ミュージアム」として活かす

昨今の震災へ対する関心の高まりや切迫さに備え、天災の多い国日本における、防災対策・防災教育のコアとなる施設をつくります。目的性の強い施設をつくることで、多くの人が集まり、楽しく防災について学べる場所を目指します。

### 実施する理由・背景 旧元町小学校の存在意義を最大限に発揮する

本敷地の周辺には、各時代の社会的なインフラを担った歴史があります。神田川や昌平坂学問所そして元町小学校。関東大震災からの復興に伴って、後藤新平と井下清によって計画された復興小学校・復興小公園のうち、唯一ふたつの施設がそろって残っているのは当敷地のみです。  
復興小学校としての元町校舎および公園を活かした、ミュージアムと学びの研究施設をつくることで、この校舎に残された大切な意義を未来へ、子供たちへ伝えていくための場としていきます。

### 具体的な内容 世界で一番の、復興について学び研究できる場に

文京区内の小学生はもちろん、修学旅行生や、国内外の研究者などが集まる場所となることを想定します。常設展として、関東大震災とその復興についての展示を行いつつ、企画展として復興に関わる世界中の事例について、研究と展示を行います。研究にあたってはさまざまな研究者が中長期的出入り可能な研究施設を想定します。震災時の体験および対策ができるコーナーや、保存食としての缶詰を試食販売できる店舗などを付設します。地震大国・日本の、現実として残る復興遺産で、世界中の人が学び研究できる場所をつくります。

### 実施体制 ミュージアムの展示と研究が一体となった、開かれた大学のような組織に

ディレクター(館長)・キュレーター(学芸員)・プリパレーター(展示運営スタッフ)等、一般的なミュージアムに近い運営体制にプラスして、研究者を想定します。

また、関東大震災の発生から100年となる2023年をきっかけとして、国や都からの補助金も視野に入れて運営を考えることのできる事業内容とします。



空から見た元町小学校と元町公園(1982年)  
出典：「元町」開校70周年記念誌、文京区立元町小学校

#### 参考事例



#### そなエリア

防災体験学習施設「そなエリア東京」は、国の災害応急対策の拠点として整備された6.7haの国営公園である東京臨海広域防災公園内にあります。地震発生後72時間の生存力をつける体験学習ツアーや、津波避難体験コーナーなどにより、実際の被災時に生き抜くための知恵を身につけることができる場が用意されています。都市公園事業により、国土交通省と東京都が役割分担をして整備しており、基本的に入場無料となっています。

画像出典：<http://www.tokyorinkai-koen.jp/sonaarea/>



#### イザ！カエルキャラバン！

次世代を担う子どもを中心とした若いファミリーを対象に、震災時に必要な知恵や技を身につけてもらうために、楽しみながら防災を学ぶをテーマに考案したイベント。「防災のお祭り」というキャッチフレーズによって、本イベントがお祭りのように多世代の人が関わり、地域の行事として継続されることを企図されています。

画像出典：<http://kaeru-caravan.jp/>